

2 マルチハビテーションの実現可能性

女性はビーチや海外、男性は農村、山村などの田舎指向

その複数居住先としてはどんなエリアを望んでいるのだろうか。

全体で見ると、トップは「海辺のリゾート、別荘地」の37%で、「高原リゾート、別荘地」が32%が続いている。この2つが双璧で、以下は「海外」(18%)、「農村、山村」(16%)などが続いている。

男女別にみると、女性で「海辺のリゾート、別荘地」が男性より10ポイント以上、「海外」も5ポイント以上高いのが目立ち、逆に男性では「農村、山村」「漁村、離島」が女性より5ポイント以上高くなっている。女性はお洒落なビーチや海外、男性は田舎志向とってよさそうである。

ゆとりある人はリゾート、そうでない人は田舎指向

資産形成状況別では、金融資産がマイナスの人では、「農村、山村」「漁村、離島」などのポイントが高く、反対に資産の多い層では、「海辺のリゾート、別荘地」「高原のリゾート、別荘地」「海外」などを挙げる人が多くなっているのが目立つ。

また、複数居住先の入手方法別にみると、会員権、利用権を購入するとする層では、「海辺のリゾート、別荘地」「高原のリゾート、別荘地」「海外」などを挙げる人が多く、「賃貸で借りる」とする人は、「海外」の割合が高くなっている。また、当然のことながら、親や親戚から譲り受けるという人では、「生まれ故郷、出身地」を挙げる人が多い。

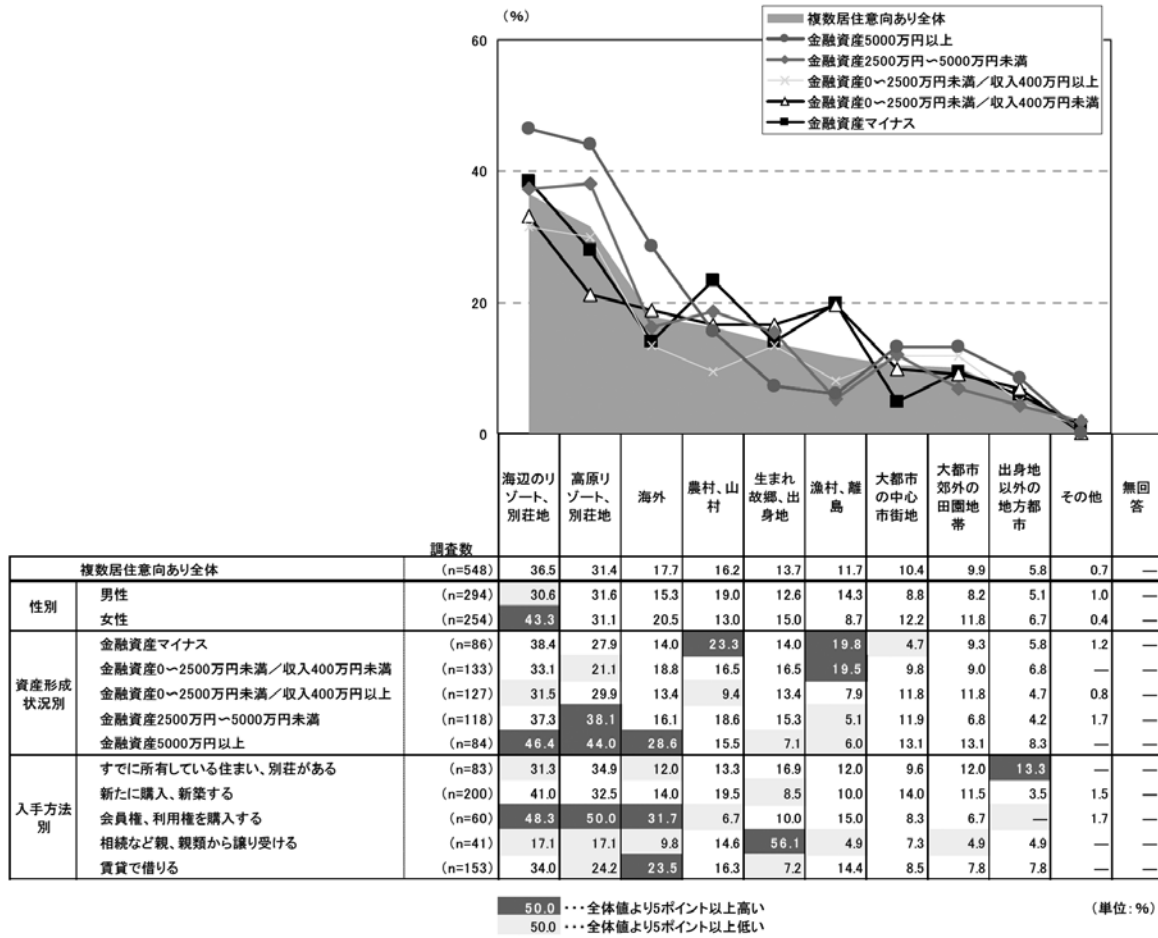
希望者の半数近くが可能と考えている

マルチハビテーションの希望者は、その現実性をどう考えているのだろうか。

希望者全体では、「十分に可能、または、すでに実現している」が10%で、「おそらく可能」も39%に達した。両方を合わせると複数居住が可能と考えている層は49%と、半数近くに及んでいる。

男女による差はさほどないが、資産形成状況別では相当な差がみられる。金融資産がマイナスという人では、可能と考える人は27%にとどまり、金融資産が0～2500万円で、収入が400万円未満の人が35%、金融資産が0～2500万円で収入が400万円以上だと50%に上昇し、金融資産2500万円～5000万円未満は60%になり、金融資産5000万円以上の人80%に達する。ゆとりある層ほど現実性があるとみていることがわかる。

複数居住希望エリア（複数居住意向のある人／複数回答）



複数居住の現実性（複数居住意向のある人／単一回答）

